

NEWS RELEASE

2024年2月21日

株式会社ファミリーマート

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

報道関係各位

ファミリーマートとコカ・コーラ ボトラーズジャパン、 物流面で協業開始 トラックの共同活用スキームを構築し、「物流 2024 問題」に貢献

株式会社ファミリーマート（本社：東京都港区、代表取締役社長：細見研介、以下 ファミリーマート）とコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 最高経営責任者：カリン・ドラガン、以下 コカ・コーラ ボトラーズジャパン）は、神奈川県海老名市・厚木市を中心としたエリアにおける配送で、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの店舗配送トラックの共同活用のスキームを構築し、2024年2月上旬から物流面での協業を開始いたしました。



1.これまでの両社協業の経緯

両社は、2023年2月以降、双方の資源を有効活用することで、SDGs（持続可能な開発目標）の分野における、多様な連携・協力事業を積極的に推進しております。このたびは、「物流 2024 年問題」への対応も背景に、これまで深めてきた連携・協力関係を物流面にも拡大し、新たな取り組みを開始することとなりました。

2.今回の協業の目的と意図

本スキームは、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの店舗配送トラックが時間帯によって稼働していないときに、ファミリーマート店舗への常温商品配送に使用することで、同一車両を2社で有効活用するというものです。

ファミリーマートでは、ペットボトル飲料や菓子、加工食品などの商品を、各地域の配送センターから週6回、店舗に配送しております。しかしながら、イベントや天候、大型商品の発注の影響などにより、通常の配送コースでは一度に配送できない商品量が不定期に発生する場合があります。その際は、臨時便として別途車両を手配し、過剰分を配送しておりますが、今後は「物流 2024 年問題」もあり、車両の確保が困難になることが予想

されます。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、自社商品を、自社物流拠点から管轄の各取引先小売店舗に配送する際に、物流パートナー社の店舗配送トラックを使用しています。配送手配において、最需要期の夏場以外は、日によって稼働率にバラつきが出ることもあることと、時間帯によって納品が無く稼働していない時間が発生することがあります。

こうした現状から、両社の配送車両の安定運行を図ることを目的に、両社で車両を共同活用する新たなスキームを構築しました。この取り組みを通じて、限られた車両を有効活用し、ドライバーの安定確保につなげるとともに、新規に使用する配送車両の削減を図り、配送効率を下げることなく車両を安定稼働させることを目指します。

3. 配送車両共同活用の概要

(1) 実施時期

- ・2024年2月上旬から開始

(2) 実施エリア

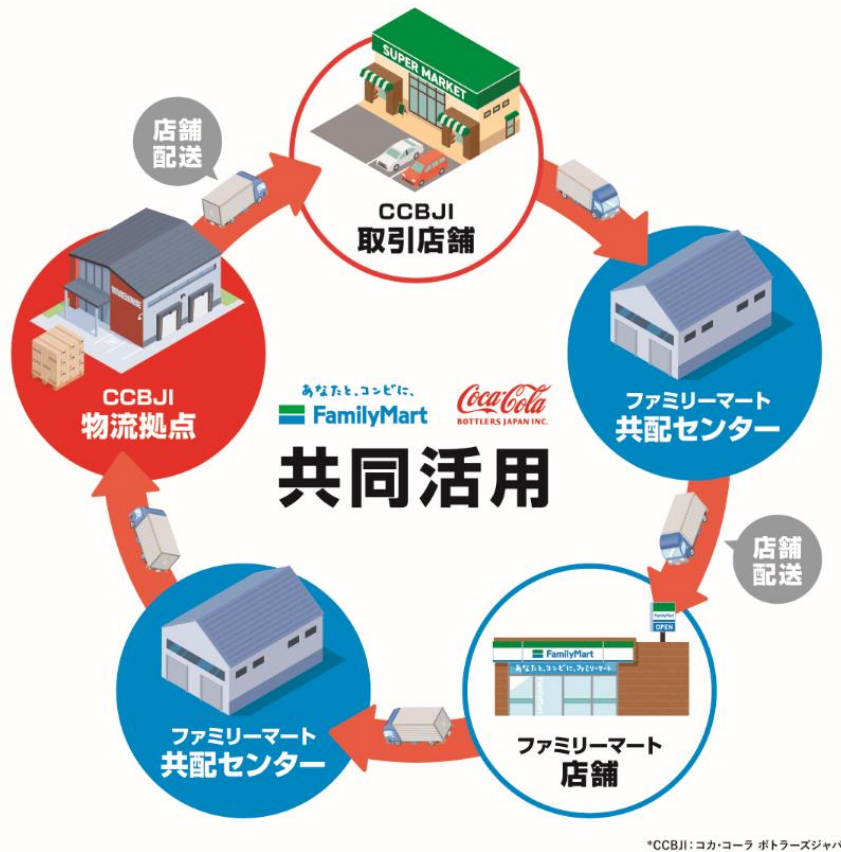
- ・両社の配送センターがある神奈川県海老名市のエリアを中心に実施します。
- ・ファミリーマートの対象店舗は海老名市を中心に厚木市、平塚市、藤沢市などの周辺エリア約240店で開始します。
- ・検証を通じて、今後両社で対応活用可能なエリアを検討し、順次拡大していく予定です。

(3) 使用する車両

- ・コカ・コーラ ボトラーズジャパンの店舗配送トラックを使用して、ファミリーマート店舗に商品を配送します。
- ・取り組みの開始時は1台でスタートし、今後の検証を通じて台数の拡大を検討いたします。
- ※配送する店舗のエリアや商品量によっては、対応が異なる場合があります。

(4) 配送手配の手順

- ①ファミリーマートにおいて、店舗からの発注データに基づき、コカ・コーラ ボトラーズジャパンに配車を依頼
↓
- ②コカ・コーラ ボトラーズジャパンで車両の稼働状況を確認し対応可能な場合は配車を手配
↓
- ③コカ・コーラ ボトラーズジャパンの配送を終えた店舗配送トラックが、ファミリーマートの配送センターに行き商品の荷受け
↓
- ④コカ・コーラ ボトラーズジャパンの店舗配送トラックで、ファミリーマート店舗に商品を配送



4. 今後の予定

車両共同活用を実施する対象エリアの拡大については、今回の取り組みの検証を通じて検討してまいります。

また、引き続きSDGsに関する領域でも連携を深めるとともに、物流面やそれ以外の領域についても、両社の資産や知見を有効活用した取り組みについて検討してまいります。

<ご参考～両社の「物流 2024 年問題」に対する主な取り組み～>

◆ファミリーマート

①AIを活用した配送シミュレーターの自社開発

AIを活用した配送シミュレーターを自社開発し、配送ルート最適化（効率化）に取り組んでおります。2022年10月から、全国の定温センターを本格稼働し、配送コース数とトラックの台数を、それぞれ約1割削減する効果がありました。2023年10月からは冷凍配送に導入し全国に順次拡大しており、2024年春夏以降、常温配送にも導入の予定です。

②曜日別配送の導入

2022年秋から一部冷凍センターで、曜日別配送コースを導入し、2023年度から全国に拡大しています。曜日別に異なる発注量（物量）に合わせたコース設定を行うことで、より効率的な配送を行うことができ、トラック台数を約5%削減する効果がありました。常温配送でも同様の取り組みを導入しています。

③ 常温配送におけるかご車納品の拡大

従来は、商品を台車に積んで店舗へ運び、ドライバーが台車から商品を降ろして納品していましたが、センターで店舗ごとに商品をかご車に積み込み、カゴ車に載せたまま店舗に納品する取り組みを拡大しています。店舗での納品作業が効率化され、ドライバーの負担軽減と納品時間の短縮につながります。センターでの積み込み時間が約 30 分、店舗での納品作業時間が、各店舗あたり約 10 分短縮される効果があります。

◆コカ・コーラ ボトラーズジャパン

① 地産地消による輸送距離の削減

1 都 2 府 35 県の当社事業エリアを 6 つのエリアに分け、需要と供給バランス、サプライチェーンインフラをデジタル管理することで、エリアを跨ぐ輸送の管理を徹底し、長距離輸送の削減に努め、地産地消を意識した製品供給を図っています。

▶ 当取り組みの詳細はこちら URL https://www.ccbji.co.jp/blog/scm_mv_intaview/

② 車両予約システム導入によるドライバーの待機時間を削減

一部の時間帯に車両が集中し、長時間の荷待ちが発生しないよう、車両を分散コントロールするための車両予約システムを導入し運用しています。オンラインでの事前受付ができるため、手続きの簡素化が図れるとともに、予約時間に合わせ事前に出荷品の準備が行えることでスムーズな積み込みと出発が可能となります。国が定める荷待ちに関するガイドライン（2 時間以内、荷待ち時間の記録管理）を大幅にクリアしており、荷待ち時間状況のデータを使って分析を行い、ゼロ時間待機を目標に改善を続けています。

③ アプリ導入などの DX による配送効率化

納品数の確認や入力作業を行うために、従来使用していた「ハンディターミナル」と呼ばれる配送用の専用端末を廃止し、配送業務をスマートフォンで完結できるようにアプリ導入しました。従来の機械より通信速度が上がったことや、帰所後に実施していた納品実績の入力作業などを外出時にも入力できるため、ドライバーの作業時間の短縮につながっています。

また、貸与したスマートフォンの GPS を使用し、配送ドライバーの活動、トラックの動きを動態管理することで、改善活動へとつなげています。また、アプリに登録された配送先の住所とトラックの現在地を GPS で照合することで誤配送の抑止を図っています。これらをはじめ、物流に関わるあらゆる業務において配送効率化を図れるよう DX を推進しています。

▶ 当取り組みの詳細はこちら URL https://www.ccbji.co.jp/blog/butsuryu_dx/